

盛地申「政策フォーラム提言実現」 第7号 に関する申し入れ交渉 その1

第1項 山田線における防災対策と活性化について支社の考えを明らかにすること。

→今後も計画的に自然災害対策を実施していく。また、地域イベントを活用した観光流動の創造に取り組んでいく考えである。

《組合》山田線は山岳地域を横断する線区であり災害が非常に高い線区で、防災対策は重要である認識であるが、会社の認識は？

【会社】同様の認識であり安全設備・自然災害の強化を行っていく。また落石防止・定期的な伐採を引き続き行う。

《組合》キロポストの整備、災害時の避難個所としての駅舎の活用、非常食やライトなどの防災道具を整備してほしい。

【会社】改修してほしいキロポストの数が具体的にあれば交換していく。是非乗務員には声をあげてほしい。老朽化した駅は順次改修しコンパクト化していく。トイレ等はそのまま使えるように残していく。非常食は基本社員がいる駅に整備する事になるので無人駅や車両に備蓄する考えはない。防災道具は車両に搭載しているものを使用してほしい。

《組合》避難経路がわからないとの声がある。現地踏査や地域のハザードマップ等を活用した社員教育を行うべき。

【会社】各自治体のハザードマップは指令でも準備していて災害時、周辺の道路状態も調べた中で指示をだしている。防災訓練の際ハザードマップを活用し行っていく。

《組合》山田線活性化のため多くのイベント列車を運行してきたがご利用状況は？また上米内駅のクラウドファンディングの活用や、新駅の考え方などはあるか？

【会社】臨時列車は4割程度の利用で、乗車率を伸ばす為にラジオ・TV等の宣伝活動を引き続き行っていく。また、上米内駅の活用は、新たな流動が生まれると期待しているが、開始後の流動を見て増便などを検討する事になる。新駅は自治体と協議して進めていく事になる。

今後も防災対策と活性化に向けて議論を行っていく事を確認！

第2項 各システムの事務職の将来像を明らかにすること。

→今後も効率的な業務執行体制の構築を検討していく考えである。

《組合》各職場の事務職の在り方や、事務職の採用数、若手への技術継承をどのように考えているか？

【会社】職場の中に事務が必要という認識。それを事務職だけが担うのか？という問題意識はある。設備で10名事務職の採用を行ったが、他系統はない。現在と違う担務を経験してもらう中に「事務」の業務があると思っている。また前日事務職意見交換会を開催し、技術継承に対する意見を出してもらった。現場の意見を聞きながら対応していく。

《組合》事務職社員が業務に必要な資格を取得できるようにしてほしい。

【会社】毎年職場から推薦をだしてもらい資格取得を行っている。各職場の実態を把握しながら行っていく。

提言に出された意見交換会開催は成果！業務に必要な資格の取得できる事を確認！

盛地申「政策フォーラム提言実現」 第7号 に関する申し入れ交渉 その2

第3項 睡眠時無呼吸症候群(SAS)に対する全組合員の認識の向上を図るため、毎年度の社員説明を行い医学適性検査にSASの項目を追加すること。

→乗務員等に対する睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査については、関係通達に基づき実施しているところである。

《組合》SASの社員説明が不十分というアンケート結果が出ているが、その認識はあるか？またこの間どのように社員説明を行ってきたか？

【会社】年度で検査を受ける人に対し、簡易検査キットを渡す時に周知している。毎年全社員に周知する考えはない。

《組合》関係通達には検査フローがあり、それを活用して認識の一致が図れるのではないか？

【会社】検査フローは管理する側が理解するものであり、社員から問われた際は管理者が説明できる為のものと考えている。

《組合》簡易検査で病状ありの社員が、精密検査前に乗務を降りたという検査フローと違う取り扱いを行った事象もある。現場の管理者が検査フローを知ってやった事なのか？そこに問題意識を持っている。正しく行うためにも社員説明を定期的に行うべき。

【会社】個別の事案は知らないが、社員とのコミュニケーションの中で不安だから降りるという事はあると思う。

《組合》現在3年に1度の検査だが、社員の健康や安全輸送の維持のため医学適性検査や、周期を短くして検査を行う必要があると考えている。また、簡易キットも精度の高いものに変える考えはないか？

【会社】検査周期が短くなる事がダメだとは一切思わないが、社員数や検査に時間がかかること、体形の変化など鑑み3年周期で検査するものとなっている。また簡易キットは本社で決めているものであり、現行で十分検査できると考えている。

《組合》新規の乗務員はいつからSAS検査を行うのか？

【会社】職場に配属になり、早い段階で行っていく。

職場の不安な声をぶつけ、認識を合わせるも地本一支社間の交渉では改善できず！

第4項 遠野駅のホーム端をスロープにし渡り板を列車接近警報装置を設置すること。

→遠野駅のホーム端にスロープ等を設置する考えはない。

《組合》遠野駅委託交渉の議事録確認では「スロープは検討中」と確認しているが、その後どうなったのか？

【会社】スロープ設置は検討していたが、現在遠野駅改修を遠野市と協議中で、その中でバリアフリーの観点から現在エレベータ設置を検討している段階であり、一旦スロープ設置は保留の状態である。

《組合》高齢者の多い支線の駅はエレベーターがなく、経費を抑えホーム移動を安易にする為に出された提言である。エレベータ設置が一番の理想だが、同様な駅でエレベータやスロープ設置の検討は考えているか？

【会社】スロープは線路を横断する事になるので、安全を考慮し立体交差やエレベータ設置が理想である。設置はその駅の利用状況を見て設置していく事になる。

《組合》現在でも車椅子のお客さま移動で苦労している。喫緊の課題としてどのように改善を考えているか？

【会社】エスカル等の機器は設置できないため、現状の取り扱いとなる。

盛地申「政策フォーラム提言実現」 第7号 に関する申し入れ交渉 その3

第5項 一ノ関駅における車いす対応の実態を明らかにし、車いすのお客さまに対応できる環境と体制を整えること。
→現行の体制で対応可能と考えている。

《組合》一ノ関駅は事前予約なしの突発での車イス対応が多く対応に苦労している。一ノ関駅のみならずどの駅も車イス対応が共通課題だと認識しているが、会社の認識は？

【会社】一ノ関駅は年間の件数を見ると決して多いわけではない。確かに突発での対応が多いが、当務助役、日勤者、改札社員で対応している。HPなどで事前予約の誘導を行い、車イス利用者には駅利用の都度伝えていく。引き続き突発利用者の利用状況は見ていく必要はある。

《組合》ワンマン列車の際、無人駅で乗降するお客さまの対応は？

【会社】これまで乗務員が対応した実績はないが、急遽の際は対応をしてもらう事になる。

第6項 支社ビル内にある簡易な軽食等の自動販売機を設置すること。
→現時点で、軽食等の自動販売機を設置する考えはない

《組合》異常時が発生すると支社ビル内から外出できず食事がとれないとの声がある。他職場での同様の声が出されているが、設置できない課題は何か？

【会社】設置できない大きな理由は売上が大きい。売上減の為、支社地下の売店閉店など他でも自販機撤去（カップラーメン、たばこ）している現状である。支社周辺では購入できる個所があるので、事前に購入などで対応してほしい。

第7項 支社ビル指令室の休養室の空調整備を改善すること。
→支社ビル内の休養室の空調設備については、個別に設置することはシステム上困難である。

《組合》支社ビル内はボイラー一括調整であることは認識しているが、休養の適正を取ることの重要性を考えたとき、休養室だけでも改善はできないか？またカビがひどい部屋もある。

【会社】現状は把握しており、現状が一番小さい室内機を設置している。休養室全室にエアコンを設置すると室外機を置く場所に大きな課題があり、ボイラー改修も莫大な費用がかかる。扇風機など代替のものを検討し、現場で準備する事に対しては問題ない。カビがひどい部屋は申告があれば清掃していく。

第8項 盛岡駅のみどりの窓口と改札事務室の冷房装置を改修すること。
→盛岡駅の空調設備については、個別に設置することはシステム上困難である。

《組合》以前熱中症で倒れた社員がいる。対策は必要である考えだが、支社の問題意識はあるか？

【会社】支社ビル同様ボイラー一括制御の為、改修は困難である。代替として冷風機を出札と改札に設置していく。

政策提言実現に向け、検証運動を継続して創り出そう！